

## PCM委員会 活動報告

株式会社日本設計 コスト設計部長  
BSIJ 理事・PCM 委員会委員長  
柳 泰彦



## PCMとは

当協会は建築積算を「建築生産活動の上流の企画段階から下流の維持保全まですべてのプロセスにおけるコストに関与し、建築のものづくりにおいて機能と経済性のバランスを図り、社会にとって価値(バリュー)の大きい建築物の創造に貢献する業務をいう。この分野は、国際的にも活動が活発化しており、今日の建築積算はPCM (Project Cost Management) と呼ばれている。」と定義しています。建築積算を基盤とした上で、広くコストマネジメント領域の活動を展開する当協会の方向性が、PCMという言葉に込められています。

## 委員会のこれまで

PCM委員会は、2010年に発足した技術委員会を母体に、鉄骨工事・概算手法・積算基準の各小委員会活動からスタートしました。

その成果は2013年に、積算協会のPCM(Project Cost Management)シリーズIV『鉄骨工事ガイドブック』、並びにPCMシリーズVI『建築プロジェクトにおけるコストマネジメントと概算』として発刊され、その後は、各支部主催による講習会テキストとしても活用されてきました。また積算基準小委員会の活動を起点に、現行の建築数量積算基準では扱われていない、新分野・新工法の積算の手引きとして、2016年にPCMシリーズVIII『プロの引き出し その1』として、①CFT構造、②免震・制振構造、③プレキャストコンクリート工法、④逆打工法を取り上げ、2017年2月の工学院大学・新宿キャンパスにおける技術発表会「特徴のある4つの構工法について積算体系化」の開催に至りました。

## 委員会が目指すもの

現行の建築数量積算基準は、躯体をコンクリート・型枠・鉄筋・鉄骨に区別し、各々の計測・計算法を定めていますが、その記載内容だけでは扱いきれない、特徴のある構工法が広く普及し、積算業務の対象となっています。しかしながら、これらの内容について、いざ詳しい知識を得

ようとしても、構造設計者ではない建築技術者に向けた手頃な解説書を探し出すことは案外困難です。「プロの引き出し」は、特に積算技術者が、短時間で体系的な知識を得ることができ、さらに数量積算や内訳作成などの手引きとして利用できる、これまでにない書籍を目指して編集されました。ここでは、積算やコストマネジメントを適切に遂行するために必要な技術面での解説と具体的な積算手法を示しています。結果的には意匠設計者や施工技術者にとっても役立つ、手頃な建築技術のハンドブックとなっています。

## 現在の取り組み

現在のPCM委員会では、下記の2つの書籍の発刊を目指し、総勢31名の委員が活動に参加しています。

そのひとつは、『プロの引き出し その2』です。「その1」に続き、①土・山留、②杭、③鉄筋、④鉄骨という4つの構工法を選定しました。①土・山留では、各種の山留工法や排水、建築数量積算基準では扱われていない工事項目の積算について、②杭では、代表的な工法の数量積算と内訳明細書の作成について、③鉄筋では、段取り筋などの実施工で使用される鉄筋工事について、④鉄骨では、既刊の『鉄骨工事ガイドブック』では扱われていない雑鉄骨についてなど、積算協会ならではの切り口で解説します。

もうひとつは、『(仮) 中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック』です。木造についても建築数量積算基準が扱っていない分野ですが、近年は学校などの公共建築を木造とする事例が増えています。しかしながら、国産材や地域産材を指定すると、コストアップあるいは発注や工程が複雑になるなど、RC造やS造とは異なるマネジメントが要求されることになり、我が国の伝統工法でありながら、意外にも手を出しにくいジャンルとなっています。そこで、中大規模木造建築に関して、建築技術と積算およびコストマネジメントについての基本を理解するための解説書を作成することとしました。

上記のいずれも、2020年度の発刊を予定して

いますので、是非ご期待ください。

## 建築技術の担い手としての積算協会

人間が太古より積み上げてきた建築技術は、建物の規模や使用材料を変化させながらも、骨格となる技術を引き継ぎながら各地域の伝統文化を形成しつつ、長い年月のなかで進化してきました。私たちの日常環境そのものである建築は、見て、触れて、踏みしめて感得することのできる確たる存在であり、その基盤となる技術は時代を超えた無数の人々による英知の集積であると言えます。

設計・積算・施工などの、ものづくりのプロセスを通じて、建築技術に込められた創意工夫に接しながら、新たな遭遇や発見のなかで仕事ができることは、この上なく楽しいことです。

しかしながら、風雨を凌ぎ、身を守るためのシェルターとして造り始められた建築が、度重なる自然災害により甚大な被害を受ける様は、21世紀の今日に至ってもなお、解決すべき多くの課題があることを示しています。

最新技術の習得と共に、積み重ねられてきた技術・作法の大切さを理解しながら建築の設計・生産を担うことに、建築技術に携わる私たちに課せられた責任と使命を感じます。

積算協会という場が磁力となり、委員会にはさまざまな組織・団体から多くの方々の方々の知恵・知見が集まります。今後とも当協会がそのような場として、建築技術の一端を担い、社会に貢献できることを願っています。

### PCM委員会

柳 泰彦	(株)日本設計
沼本 要七	セブンニーズ建築研究所
加納 恒也	(公社)日本建築積算協会
浦江 真人	東洋大学
杉江 弘光	東急建設(株)

### PCM4部会

柳 泰彦	(株)日本設計
沼本 要七	セブンニーズ建築研究所
福島 隆	鹿島建設(株)
野中 拓	(株)竹中工務店
山崎 茂	五洋建設(株)
大窪 徹	(株)佐藤総合計画
古澤 勉	(株)川村積算
沼尾 憲司	清水建設(株)
藤井 篤志	大成建設(株)
中野 壮訓	(株)久米設計
篠原 真樹	(株)アーキ・ピーアンドシー
伊藤 達成	戸田建設(株)
菊池 栄太郎	西松建設(株)
藪内 貴英	(株)NTTファシリティーズ
清水 友一	(株)協和建築積算事務所
森 亨	東急建設(株)
内山 剛一	(株)フジタ
影山 博幸	(株)松田平田設計
酒井 信行	(株)中野積算

### 木造建築小委員会

浦江 真人	東洋大学
沼本 要七	セブンニーズ建築研究所
涌井 英雄	(株)NTTファシリティーズ
柳 泰彦	(株)日本設計
加納 恒也	(公社)日本建築積算協会
山辺 豊彦	(一社)日本建築構造技術者協会
二国 純生	木と建築で創造する共生社会実践研究会
小田嶋 良一	(一社)日本木造住宅産業協会
藤田 譲	(一社)中大規模木造プレカット技術協会
矢沢 秀周	(一社)中大規模木造プレカット技術協会
矢野 武	(株)矢野建築設計事務所
坂口 晴一	(一社)日本ツーバイフォー建築協会
藤野 栄一	職業能力開発総合大学校 <オブザーバー>
吉田伸郎	(公社)日本建築積算協会会長